

1. 総合相談・支援業務					
①地域における潜在的な利用者の実態把握				評価	◎
センターが高齢者の相談窓口であることについて、圏域全体の多世代に浸透させるための取組みを工夫している	○	地域の広報誌やセンター広報誌等による継続的な広報を行っている	○	地域活動(民児協、町内会関係の会合、地域団体の集まり等)へ参加し、地域高齢者の情報収集をしている	○
収集した情報に基づき、必要に応じた戸別訪問をしている	○	地域における関係機関・関係者のネットワークについて、マップまたはリストにより管理している	○		
圏域全体から相談が寄せられている	○	センターへ相談が入る体制が構築されている	○	高齢者以外の分野の関係機関と連携し、潜在的な高齢者の実態把握・支援に努めている	○
②相談受付から支援に至るまでの適切な対応				評価	◎
相談内容から緊急性を判断し、必要であれば速やかに訪問するなどの適切な対応ができています	○	本人の生活環境の把握や本人・家族等の意向確認等を的確に行い、課題を明らかにしたうえで支援方針を立案している	○	センター職員の専門性を生かしたチームアプローチを十分活用し、支援を行っている	○
定期的に状況を確認するなど、状態に応じた継続的な支援を行っている	○	支援の状況について、ケースカンファレンスなど所内での情報共有や振り返りを行っている	○	関係機関への引継の際は、丁寧に情報共有をしながら引継ぎを行っている	○
関係機関への連携・引継を実施した後も、必要に応じて定期的に状況の確認を行っている	○	支援方針の立案にあたっては、つながりのある既存の支援者の有無を確認し、必要に応じて関係機関の意見を聴取するなど連携を図っている	○		
③相談記録の整理と課題抽出に向けた取組				評価	○
高齢者総合相談関係書類(利用者基本情報、支援経過記録など)を、常に最新の情報に更新し、必要な情報を適宜把握できるような状態で、整理・保管している	○	相談件数を把握し、その相談経路や相談内容ごとに件数の内訳を集計している	○	相談内容や支援内容だけでなく、所内での検討の過程や結果について記録している	○
相談記録が、担当職員の引継ぎまで意識した、相談者の心身の状況や生活環境等がよく伝わる記録となっている	×	相談内容の傾向から、地域の課題を抽出し、その課題解決に向けた取組を計画または実施している	○		
大項目1の評価 ⇒		◎	中項目に△がある⇒大項目△、中項目に△がなく◎が2以上⇒大項目◎、それ以外○		

2. 権利擁護業務

① 成年後見制度の活用促進

評価

◎

地域の高齢者及び関係機関に制度を周知している	○	制度を理解し、他機関と連携しながら活用に結びつけている(事例がない場合でも活用に結びつける体制を整えている)	○	関係機関と連携して情報把握に努めるとともに、制度が必要と思われる方の情報がセンターへ入る体制を構築している	○
------------------------	---	--------------------------------------------------------	---	-------------------------------------------------------	---

② 高齢者虐待への対応

評価

◎

地域の高齢者及び関係機関に高齢者虐待防止に関する啓発を実施している	○	緊急性を判断して対応している	○	仙台市高齢者虐待防止・対応マニュアル等をもとに、区役所をはじめ他機関と連携し事例に対応している(又は対応できる体制を整備している)	○
虐待防止の観点から、地域の高齢者の情報の把握を関係機関等を通して行っている	○	虐待対応時に見えてきた課題等について、区役所をはじめとした他機関と共有しノウハウを蓄積しながら、困難ケースに対する対応力が高まるよう努めている	×		

③ 消費者被害の防止

評価

◎

地域の高齢者及び関係機関に消費者被害に関する注意喚起を実施している	○	民生委員・介護支援専門員・ホームヘルパー等へ消費者被害に関する情報を提供している	○	消費者被害が疑われる高齢者に対して、消費生活センターや警察等の他機関と連携して事例に対応している(又は対応できる体制を整備している)	○
関係機関からの情報把握と、被害が生じている可能性があると思われる方の情報がセンターへ入る体制を構築している	○				

大項目2の評価 ⇒

◎

中項目に△がある⇒大項目△、中項目に△がなく◎が2以上⇒大項目◎、それ以外○

3. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①介護支援専門員と医療機関等の連携に向けた支援				評価	◎
利用者の状態に応じて、医療機関と介護支援専門員等との連携が図られるよう調整を行っている	○	関係機関に対し、サービス担当者会議について理解が得られるよう働きかける等の支援を行っている	○	地域の介護支援専門員と医療機関をはじめとした関係機関と連携・協働できるよう独自の工夫を行っている	○
②介護支援専門員に対する支援				評価	◎
ケアプランの作成支援等を行っている	○	担当圏域における居宅介護支援事業所のデータ(事業所ごとの主任介護支援専門員・介護支援専門員の人数等)を把握している	○	地域の介護支援専門員が相談しやすくなるよう、顔の見える関係づくりを行っている	○
地域の居宅介護支援事業所の介護支援専門員のニーズを把握し、ニーズに応じた適切な支援を行っている	○	自立支援の理念を念頭に置き、介護支援専門員自身の問題解決能力を高めるよう支援を行っている	○		
介護支援専門員個人への支援のみならず、多職種連携による地域全体での連携体制の確保など、介護支援専門員が包括的・継続的ケアマネジメントを円滑に実践できるよう環境整備を行っている	×	介護支援専門員へ地域特性や地域資源の情報提供を行っている	○		
③介護支援専門員を対象にした研修会等の実施による支援				評価	◎
年間の実施計画を立てたうえで、センター単独又は複数センター合同で、介護支援専門員を対象に実践力を高める研修等を複数回開催している	○	地域の介護支援専門員同士のネットワーク構築を支援している	○	前年度実施した研修会の内容、居宅介護支援事業所の介護支援専門員のニーズ等を踏まえて、研修会の内容を計画的に定め、介護支援専門員の資質向上に向けた目標・方向性を明確に設定している	×
介護支援専門員を対象とした研修会・事例検討会等の開催計画を年度当初に指定居宅介護支援事業所に示している	○				
大項目3の評価 ⇒		◎	中項目に△がある⇒大項目△、中項目に△がなく◎が2以上⇒大項目◎、それ以外○		

4. 認知症関連業務					
①本人・家族支援				評価	◎
様々な機会をとらえて認知症の人や家族の意向・意見を聞き、事業運営や個別支援に反映させている	○	介護に関する家族からの相談に対し適宜対応を行っている	○	本人・家族の支援に係る情報・資源を把握、必要に応じて情報提供を行っている	○
認知症ケアパス(全市版・地域版・個人版)の普及に取り組んでいる	○	認知症の人や家族が、支えられる側としてだけでなく、支える側として様々な事業に参画・提言できる場の創出を行っている	×	その他、本人・家族支援に関する独自の取り組みを実施している	○
②早期相談・早期診断・早期対応				評価	◎
認知症の相談窓口であることについての積極的な周知を行い、関係機関から相談がある	○	認知症初期集中支援チーム、かかりつけ医、認知症サポート医、認知症疾患医療センター等と顔の見える関係を作り、認知症の早期相談・早期診断・早期対応につながるよう連携し、住民と関係機関との橋渡しを行っている	○	認知症の人を取り巻く状況を適切にアセスメントし、医療や介護サービスだけでなく、インフォーマルサービス等を紹介するなど、状態に応じた支援を行っている	○
認知症の状態に応じて適切な情報提供を行い、現時点ではサービス等につなげていなくても、必要ときに支援を提供できる体制を構築するなど、長期的で切れ目のない支援を行っている	○				
③地域における支援体制づくり				評価	◎
町内会や民生委員、地域のサロン、学校関係、小売業、金融機関等の関係機関に認知症の正しい知識の普及・啓発を実施している	○	認知症の人やその家族の思い、認知症の人をとりまく地域の状況等を把握し、課題整理をしている	○	「仙台市認知症の人の見守りネットワーク事業」の協力者を増やす取り組みを行っている	○
認知症サポーターに、地域での活動に対する意向を聞き取るなど、認知症サポーターの活躍の場の創出につながる取り組みをしている	○	認知症サポーター及び認知症パートナーの活躍の場の創出や認知症カフェの設置等を通じて認知症の人と家族が地域との交流が途切れないよう、地域での居場所づくりに取り組んでいる	○	認知症パートナー講座の開催等を通じて、認知症の人や家族の思いを聴き、その視点に立つ機会を創出し、認知症であってもなくても自分らしく暮らし続けるために互いに支え合う意識を持った地域づくりを行っている	○
地域住民や関係団体・機関(町内会、民児協、医療機関、サービス事業者、交番など)の協力をもとに、認知症の人を地域で見守る独自の体制構築に取り組んでいる	○	その他、支援体制づくりに関する独自の取り組みを実施している	○		
大項目4の評価 ⇒		◎	中項目に△がある⇒大項目△、中項目に△がなく◎が2以上⇒大項目◎、それ以外○		

5. 介護予防関連業務

①介護予防の取組等を要する者の把握				評価	◎
様々な機会をとらえて、介護予防の取組が必要なる者を把握し、介護予防活動につなげている	○	フレイルチェックの活用により、フレイルのリスクが高い高齢者を把握し、介護予防活動につなげている	○	豊齢力チェックリスト郵送事業にて把握した該当者や未返送者に対し面談等のアプローチを行い、本人の状態像や生活の様子を捉え、支援の方向性を適切に判断し、計画的にアプローチを行っている	○
介護予防の取組が必要なる者へのアプローチの際に積極的にうつすの暫定二次アセスメントを実施している	○	豊齢力チェックリスト郵送事業やフレイルチェック、地域の集まり等で把握した、継続的に関わりが必要なる者について、適切な支援につなぐ他、インフォーマルサービスや地域情報の提供を行っている	×	通いの場等や介護予防教室などの参加者の状態像を、チェックリストや体力測定などのデータを用いて継続的に把握している	○
②介護予防の目的を意識したケアマネジメント				評価	◎
③介護予防普及啓発の実施				評価	◎
地域住民一人ひとりが自分事として介護予防・フレイル予防の重要性に気づき、地域全体・住民主体で取り組めるよう、フレイルチェックや杜の都体操シリーズを活用し、介護予防教室以外にも様々な機会をとらえ、広く普及啓発を図っている	○	地域の他機関による介護予防に資する取組を把握し、介護予防活動の推進のため、適宜、地域住民に紹介している	○	フレイル予防をはじめとする介護予防事業の企画・実施にあたっては、担当圏域の実情を踏まえ、計画的に開催場所や内容の選定を行うとともに、高齢者の社会参加の機会づくりとしたり、地域の新たな社会資源創出のきっかけにするなど、地域課題の解決を見据え取組を進めている	○
フレイル予防の三本柱「運動」「栄養・口腔」「社会参加」を意識し、バランスの良い取組を行っている	○	オーラルフレイルを含むフレイル予防をはじめとする介護予防事業での普及啓発活動を通して、地域住民の介護予防に対する意識を高めるとともに、通いの場の創出に向けた機運の醸成を図っている	○		
④地域の介護予防活動の支援 (介護予防自主グループ及びサポーター支援を含む)				評価	◎
地域の関係機関等からの要望に応じ、介護予防・健康づくりの健康教育を行っている	○	地域で自主的に運動に取り組むグループが継続的に活動できるよう自立性を高めるよう働きかけている	○	通いの場等が地域全体に存在するよう、地域に戦略的に働きかけている	○
通いの場等の状況を把握し、介護予防の視点で支援が必要な場合に、リハビリテーション専門職を派遣する等適切な介入を実施している	○				
多様な運営主体の通いの場等を把握するとともに、地域の実情に応じて、様々な運営主体・場所・活動内容によって住民が主体的に取り組む通いの場等の育成・支援等を行っている	×	通いの場等の活動継続や活動再開に向けて、グループの活動状況をアセスメントし、その課題に応じて相談対応や専門職の支援等、適切な介入を行っている	○	通いの場等の状況を把握し、栄養改善等の観点で支援が必要な場合に、専門職による支援を実施する等適切な介入を行っている	○
大項目5の評価 ⇒				◎	中項目に△がある⇒大項目△、中項目に△がなく◎が2以上⇒大項目◎、それ以外○

6. 地域・関係機関との連携・ネットワークづくり

① 支え合いの地域づくりの推進

評価

○

支え合いの地域づくり推進のためのセンターの業務や役割について、圏域全体に周知している	○	地域の催し等に参加するなど、機会をとらえて積極的に地域との関係づくりに取り組んでいる	○	関係機関と連絡が取り合える関係にあり、ネットワークの必要性について働きかけている	○
地域の特性を把握し、ニーズや課題について整理している	○	住民主体の活動(通いの場や生活支援等)へつなげていけるよう、住民に働きかけ、地域支え合いの機運の醸成に取り組んでいる	○	インフォーマルな社会資源に関する情報を収集・整理し、利用者や関係機関に情報提供している	○
第1層生活支援コーディネーターと連携してネットワーク構築に取り組んでいる	○	支え合い活動の担い手を発掘するための取組みを行っている	○	集めた地域課題を資料にまとめるなど、地域の実情や課題を可視化し、地域住民と共有している	○
インフォーマルな社会資源の継続・拡充への働きかけを実施している	×	インフォーマルな社会資源がない地域で、積極的に創出のための働きかけを実施している	×		

② 医療介護の連携

評価

○

在宅医療・介護連携推進事業における相談窓口等を必要に応じて活用し、居宅介護支援事業所への周知も図っている	○	個別のケース会議を開催する際に、医療関係者に参加の声掛けをしている	○	医療関係者と合同の講演会・勉強会等に参加している	○
医療関係者と合同の事例検討会に参加している(退院時カンファレンスは含まない)	○	病院、診療所等の医療関係機関と連絡が取り合える関係にあり、ネットワークを構築している	○	医療関係者と、医療と介護に関する地域課題について、共有または検討している	×

③ 防災への対応

評価

◎

災害時に援護が必要な人のリストを作成し、安否の確認が行えるようになっている	○	センター独自の災害時対応マニュアル等を整備している	○	関わりのある高齢者に対し、訪問の機会等に防災対策の啓発を実施している	○
担当圏域内の防災体制の情報収集を行っている	○	災害時要援者情報登録制度による要援者リストについて、地域の関係団体等と情報交換を実施するとともに、個別の支援方法に関する相談に対しアドバイスを実施している	○		
地域の関係機関と連携し、実情に応じた災害時の対応を整理している	○	個別に支援を行っている要援高齢者に対して、災害時の個別支援計画の策定につながる支援をしている	○		

大項目6の評価 ⇒

○

中項目に△がある⇒大項目△、中項目に△がなく◎が2以上⇒大項目◎、それ以外○

7. 地域ケア会議

①個別ケア会議の開催

評価

◎

個別ケア会議について、居宅介護支援事業所・サービス事業者・町内会・民生委員・医療機関など、高齢者に関する地域関係団体に周知を行っている

○

個別ケア会議を【圏域内高齢者人口の0.1%】回以上開催している(開催する予定である)

○

個別ケア会議で検討した事例について、その後の変化等をモニタリングしている

○

個別ケア会議で検討した事例の蓄積を通し、共通する課題を整理している

○

②包括圏域会議の開催

評価

◎

地域の実情に合わせた開催エリアを設定し、複数回開催している

○

医療機関・町内会・民生委員・サービス事業者など、高齢者に関する地域の関係機関が参加している

○

会議内容はセンターの紹介にとどまらず、地域の実情にあわせて計画的にテーマ設定している

○

担当圏域全体を網羅(または今後網羅予定)している

○

議事録や検討事項をまとめ、参加者間で共有している

○

個別ケア会議で抽出された課題や地域アセスメントからの課題などを参加者と共有するとともに地域課題の解決のための具体的な取組につなげている

○

③地域ケア会議を通じた自立支援の取組み

評価

○

「介護予防のための地域ケア個別会議」へ参加し、自立支援・介護予防を意識したマネジメントに取り組む必要性について理解を深めるとともに、実践している

○

地域住民向けに自立支援や介護予防の重要性について、個別ケア会議、包括圏域会議、出前講座などの機会を通して周知している

○

地域の専門職と共に重度化防止・介護予防について検討する事例など、処遇困難事例のみならず、様々な事例での個別ケア会議の開催を通し、地域の中で自立支援について検討している

○

機能強化専任職員が個別ケア会議や包括圏域会議、「介護予防のための地域ケア個別会議」へ参加し、地域資源の活用や地域課題の把握に努めている

○

大項目7の評価 ⇒

◎

中項目に△がある⇒大項目△、中項目に△がなく◎が2以上⇒大項目◎、それ以外○

8. 運営体制					
①3 職種その他の職員の職務分担及び連携				評価	◎
基準を置いて職務分担の設定をしている	○	困難事例等については、チームアプローチを念頭に置いた対応をとっている	○	日常の業務内容について、所長が網羅的に把握している	○
センターの年間計画や目標について、全職員が共有している	○	機能強化専任職員配置の目的や役割を理解しており、機能強化専任職員と3職種その他の職員とが連携して事業に取り組んでいる	○		
年間計画や目標について、達成に向けた進行管理が行われている	○	機能強化専任職員が把握した地域資源を所内で共有するとともに、3職種その他の職員が地域資源を積極的に活用している	○	職員の担当するケアプラン件数が、負担軽減のための上限基準以内となっている	○
②中立・公正の確保				評価	○
職員全員が、センターが中立・公正でなければならないことを理解し、日々の業務で心掛けている	○	必要に応じ職員証を活用するなど、市の委託事業であることを周知している	○	サービスの紹介などでは、複数の事業所を提示し、利用者が選択できるようにしている	○
特定の事業所に偏らず支援・連携を行っている	○	居宅介護支援事業所へ介護予防ケアマネジメント・介護予防支援の委託を行う際、正当な理由なく、委託総数の半数以上が同一の居宅介護支援事業所に対して委託されることがないようにしている	×		
③業務改善への取り組み				評価	○
利用者や家族からの要望・意見を聞き、必要に応じてセンターの運営に反映している	○	業務日誌等で日々の業務における課題・反省点を把握している	○	改善を図る仕組みが構築され、実際に成果を上げている	○
利用者や家族、地域住民の声をアンケート等により積極的に収集し、業務改善のために活用している	×				
④職員の資質向上				評価	○
国、県、市、区主催のセンター職員向け研修に積極的に参加している	○	研修で得た知識・情報について、センター内で伝達する機会を設け、職員全員に共有している	○	運営法人又はセンター独自でセンターの業務に資する研修を計画的に実施している	×
運営法人やセンター独自による、職員の自己研鑽に関する助成等の制度の構築、または職員が自己研鑽を行いやすい環境づくりを実施している	×				
大項目8の評価 →		○	中項目に△がある⇒大項目△、中項目に△がなく◎が2以上⇒大項目◎、それ以外○		